

区分名： 看護の基本となる科目
科目名： 看護学の基本Ⅱ
(英語名称： Nursing Fundamentals Ⅱ)

【担当教員】 黒田 るみ

【開講年次】 1年次 【学期】 後期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 演習 【単位数】 2単位 【時間数】 30時間

【概要】

看護は、対象が健康な生活を送ることができるように支援する役割を持つ。対象は、健康状態や日常生活の状況、現在に至るまでのプロセスがそれぞれ異なる。同じ病気を抱えていても、対象が必要とする看護は同じではない。対象が求める看護を実践するためには、看護過程が基盤となる。看護過程は、私たちが日常的に用いる問題解決の思考過程が基本となっており、多くの看護実践現場が用いている方法である。この科目を通して、看護を実践するための基本を学習する。

看護師として実務経験のある教員が担当する科目である。

【学習目標】

- 1) 看護過程の展開と看護実践能力との関連を説明できる。
- 2) 看護過程の目的および構成要素について、説明できる。
- 3) 看護過程の展開が、対象と看護師との相互行為を通して行われることを具体的に説明できる。
- 4) 自身を対象に、情報の整理、アセスメント、看護上の問題抽出、看護目標の設定、看護計画の立案、実施、評価を行うことにより、看護過程の展開技術を実践できる。
- 5) 映像や紙上の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護上の問題抽出、看護目標の設定、看護計画の立案を行うことにより、看護過程の展開技術について、理解を深めることができる。
- 6) 看護過程の展開について、自己の思考過程を記録に表現でき、自己評価できる。
- 7) 課題およびグループワークを通して、自身の思考の傾向や課題に気づくことができる。

【テキスト】

指定しない。

【参考書】

- ・香川明夫編：七訂食品 80 キロカロリーミニガイド、女子栄養大学出版部、2017.
- ・チャールズ・デュヒッグ著、渡会圭子訳：習慣の力、講談社、2013.
- ・瀬江千史：〔改訂版〕育児の生理学 現代社白鳳選書 2、現代社、2007.
- ・任和子編著：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド（プチナース BOOKS）、照林社、2015.

【成績評価方法】

定期試験 50%（50 点）、レポート（提出課題）・授業およびグループワークへの参加態度 50%（50 点）を合わせて合計 60 点以上を合格とする。

【その他（メッセージ等）】

この科目では、「看護学の基本 I」の学習内容を踏まえ、看護の対象に看護を実践していく方法論について学びます。自分自身の日常生活や健康上の課題を振り返り、“生活過程をより健康的に整えるとはどうすることなのか”について、仲間との討議を重ねながら理解を深めていきたいと考えています。

【授業内容(学習項目)】

回数	項目	内容（キーワード等）
第 1 回	オリエンテーション 看護過程の概要①	看護過程の展開および看護実践能力 看護および看護学における看護過程の展開、 看護過程の構成要素
第 2 回	看護過程の概要②	看護の目的と問題解決過程
第 3 回	観察と情報の整理①	観察と情報収集、コミュニケーションと情報 収集、測定用具を用いた情報収集
第 4 回	アセスメントと看護問題の 抽出①	アセスメントとは、ケアリングとは
第 5 回	アセスメントと看護問題の 抽出②	看護問題とは、標準化と個別性
第 6 回	看護過程の展開①	「食事・栄養」の側面からの情報の分析・解 釈、看護問題の抽出
第 7 回	看護過程の展開②	「看護過程の展開①」のグループワークと発 表
第 8 回	看護過程の展開③	看護目標および看護計画の立案、看護記録に ついて
第 9 回	看護過程の展開④	「看護過程の展開③」のグループワークと発 表

第10回	看護実践とその評価①	看護実践の評価・看護計画の修正、対象の全体像を踏まえたアセスメント
第11回	看護実践とその評価②	「看護実践とその評価①」のグループワークと発表
第12回	看護過程の展開の実際①	紙上事例に関する看護計画の立案
第13回	看護過程の展開の実際②	紙上事例に関する看護計画のグループワークと発表
第14回	看護学の基本Ⅱのまとめ①	「関連図」「手順書」「サマリー」の概要と実際
第15回	看護学の基本Ⅱのまとめ②	看護過程の展開能力に関する自己の振り返りと今後の課題

【学習アウトカムと科目達成レベル表】

学習アウトカム			科目達成レベル		
1. プロフェッショナル					
看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。					
1)	看護倫理	①	生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。		
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。		
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。		
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。	●	実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である
4)	法令等の規範遵守	①	個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。	○	態度、習慣、価値観を模擬的

		②	各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。		に示せることが単位認定の要件である
2. 生涯学習					
看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。					
1)	自己啓発と自己鍛錬	①	看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。	○	基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である。
		②	看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。		
		③	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。		
		④	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。		
3. 人間関係の理解とコミュニケーション					
自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。					
1)	看護を必要とする人々とのコミュニケーション	①	人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	人々の社会的背景を理解して尊重することができる。		
		③	看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。		
		④	望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。		
2)	チームでのコミュニケーション	①	人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。	○	基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である
		②	チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。		

		③	チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。		
		④	人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。		
4. 知識とその応用					
看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。					
			以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）		
1)	豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者	①	感性を高める科目	○	模擬的な場 に知識を応用 できることが 単位認定の要 件である
		②	倫理性を高める科目		
		③	論理的思考能力を高める科目		
		④	表現力を培う科目		
2)	創造性豊かな看護専門職者	①	社会の理解を深める科目	○	模擬的な場 に知識を応用 できることが 単位認定の要件 である
		②	人間の理解を深める科目		
		③	人間の身体機能と病態を理解する科目		
		④	看護の基本となる科目		
		⑤	看護実践の基盤となる科目		
3)	ニーズに対応する実践能力を備え	①	看護実践の応用となる科目	●	実践の基盤と なる知識を示 せることが単
		②	看護の実践		

	た看護専門 職者	③	看護を統合する科目		位認定の要件 である
5. 看護の実践					
人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を 実践することができる。					
1)	人々のニ ーズに基づ いた看護の 実践	①	人々の健康レベルを、成長発達や日常生活 を取り巻く環境の観点で捉えることが できる。	○	模擬的な場 で実践でき ることが単 位認定の 要件である
		②	人々が活用できる地域の社会資源、保健・ 医療・福祉制度や関係機関の機能と連携に ついて説明できる。		
		③	人々の健康に関するニーズを明らかにす るために、必要な情報を収集し、アセス メントすることができる。		
		④	健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計 画することができる。		
		⑤	安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健 康段階に応じた看護を実践できる。		
		⑥	看護の対象となる人々、保健医療福祉等の 専門職と協働して、人々がその健康問題を 解決することを支援することができる。		
		⑦	看護実践を評価し、計画の修正を図ること ができる。		
		⑧	地域の人々の健康問題の解決のために、既 存の社会資源の改善や新たな社会資源の 開発、フォーマル・インフォーマルなサー ビスのネットワーク化、システム化の重要 性を説明できる。		
6. 地域社会への貢献					
<p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護 専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明で きる。</p>					

1)	地域の人々の生命と暮らしを守る	①	地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。		
2)	福島の災害から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。	△	修得の機会があるが、単位認定に関係ない
		②	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。		
		③	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。		
7. 看護学発展への貢献					
看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。					
1)	科学的・論理的思考	①	看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。	○	理解と計画立案が単位認定の要件である
		②	科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。		